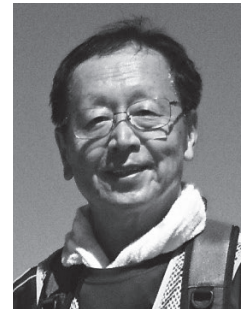


『仕事への思いを中学生に語る』



公益社団法人 日本防犯設備協会 理事
かがつう株式会社 取締役 照明本部本部長 乗木 俊毅

(公社)日本防犯設備協会の会報誌「防犯設備」のリレートークへの寄稿依頼があり、どのような内容にしようかと迷いました。既に還暦を過ぎ社歴も40年を超えました。そこで私の仕事人生についての思いを書こうかと悩んでいるときに、5年程前に横浜市のある中学校で自身の「仕事についての思い」と題して授業を1時間受けもったことを思い出しました。その時の内容を振り返り自身の仕事について中学1年生に何を語ったかを書かせていただきます。

私が横浜に単身赴任した時、2人の子供は小学生でした。長男が中学3年のときに彼に宛てた手紙の内容を紹介しながら、中学時代の興味と今の仕事の思いについて中学1年生に以下のように語りました。

私の中学時代の好きだったこと

中学時代はラジオが大好きで、自転車で遊びに行くときもトランジスターラジオをハンドルに掛け、走っていました。その時代は短波帯も聞けるラジオで、偶然に普通の放送ではない声が聞こえてきました。条件が良いと日本各地から電波が届きました。(能登半島の先端という地理的な好条件もあったと思います)それはアマチュア無線(7MHz帯)だったのです。なるべく電波をとらえなかったもので、理論もわからず竹竿の間に線を張りラジオのアンテナにつなぎました。



手作りアンテナ

その一方で、自転車をピカピカに磨き上げ赤、青、黄色の小さなランプを自転車のあちこちに取り付け、夕方薄暗くなると家の近所を走り回っていました。また、家には真空管ラジオがあって、その中の周波数を合わせる表示部の小型電球を取り出し、屋外に付けて家の周りの灯りにしていました。(ラジオを点けると外の照明が点灯するという仕掛けです)更に安全に配慮してダウントランス(AC100V⇒DC12V)を使ったものに改善して喜んでいました。



小型ランプを付けた自転車

以上から、「通信」と「灯り」というキーワードが浮かび上がってきます。



手作り照明灯

今の仕事との関係

大学は通信工学を学び、今の会社を選んだ理由は、「地元(石川県)」と「通信」がキーワードでした。しかし現在は横浜、そして仕事の内容も屋外照明であり、当初望んでいた仕事とは異なっています。

しかし、中学時代の好きだったことのキーワードに「灯り」がありました。改めて振り返ると中学時代に好きだったこととつながりのある仕事に就いていたことに感心しました。

私の好きな言葉

「一隅を照らす」

伝教大使・最澄の「一隅を照らす、此れ即ち国宝なり」の言葉の一部です。家庭や職場など自分がおかれた場所で、精一杯努力し、明るく輝くことのできる人こそ、何物にも代えがたい貴い国の宝であると私は解釈しています。今の仕事におきかえると「たとえ小さな会社でも狭い分野で他社に負けない仕事をやる」、「狭い分野でも他の人に負けない自分の得意分野をつくる」であり、常にそれを意識しています。

苦難は仲間と共に乗り切る

仕事をしていると必ず課題に直面したり、失敗したりすることがあります。そして、その対応はつらいことが多いです。しかし、会社には仲間がいます。みんなで力を合わせ乗り切ってきました。全員で協力し目標を達成したときの喜びは大きいです。

趣味をもつことの楽しみ

私は、山登りや道の駅泊り旅行が大好きです。山に登っていると開放的な気分になれ、目的地の天候や混雑状況により柔軟に対応できる道の駅泊り旅も、気ままで解放感を味わえます。(宿泊の予約はせず車の中で寝ます)富士山登山の途中の山小屋に当社の防犯灯が付いていて驚きました。(開放感を味わっているはずなのに、すぐ仕事に気が向いてしまうのはどうしようもないですね)

そんなことも楽しみに加えると人生の味がでてくるように思います。



富士山山頂にて



山小屋に設置された
防犯灯

以上のようなことを仕事の失敗談を含め中学1年生に語りかけました。授業の数日後、生徒みんなから感想やお礼の作文をもらい、子供たちに仕事の面白さなど夢をもってもらうことに人生の経験者として役に立てたことをうれしく感じています。

街路灯の光源が蛍光灯からLEDに大変革する時代にめぐり合わせ、そして日本防犯設備協会で防犯照明委員会やRBSS委員会に参加し、LED防犯灯の普及活動や講演など社会の役に立てたことも良い経験となりました。関係の皆様はこの場でお礼を申し上げます。

これからも私の好きな言葉である「一隅を照らす」を目標に、そのときにおかれた立場で精一杯努力していきたいと思っています。